令和6年度（5年度実施分）事務事業目的評価表

様式1-1

記入日

令和06年11月12日

1 事務事業 の 現 状 P L A N 及 び D O	事務事業名		No.	288	リサイクル推進事業							
	この事務事業の位置		政策	自然環境を守り未来へつなぐまち								
			施策	環境にやさしいまちにしよう								
			基本事業	循環型社会								
	主管課名		生活環境課			課長名	鈴木 孝明					
	この事務事業の開始時期		平成12(2000)年度			事務区分	☐ 法定受託事務 ☒ 自治事務					
	この事務事業の根拠法令		容器包装リサイクル法									
	事業の概要					現在の状況とこの事務事業を行う根拠または理由						
	・再利用資源の有効利用及びごみの減量化を推進し、あわせて市民のリサイクル意識の高揚を図るため、補助員を配置したリサイクルステーションを運営する。 ・回収資源ごみ 24種類 ・ごみ減量化対策の一環として、家庭より排出される生ごみを自ら処理することを推進し、あわせて、東郷美化センターから発生する残さを減少させ、最終埋立処分場の延命を図るため、生ごみ処理機（機械式）生ごみ堆肥化容器を購入する者に補助を行う。 「SDGsの取り組み：4, 11, 12」					・資源ごみの有効利用及び減量化を推進し、あわせて市民のリサイクル意識の高揚を図るため、分別指導及び清掃業務を委託し、常設のステーションを運営。 【リサイクルステーションの設置箇所】 きたよし地区 1箇所（メグリア三好店） なかよし地区 1箇所（三好公園第4駐車場北） みなよし地区 1箇所（グリーンステーション） ・ごみの適正処理により、資源の再利用を進め、あわせてごみの減量化を図る必要がある。						
	R5年度に実施した具体的な事業の方法、手順、指標に対する成果等			各地区、店舗及びリサイクルステーションで資源ごみを回収し、再資源化を行った。リサイクルステーション（メグリア）の建替えを実施し、規模を拡大するとともに、小型家電の回収を開始した。								
事務事業を取り巻く状況は過去と比べ変化しているか					(1) 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）							
変 化 内 容	・リサイクル関連法の整備が進み、回収品目、回収量が増加している ・資源ごみ回収推進補助事業が統合された				名称		単位					
					①	リサイクルステーションでの回収量	t					
					②	リサイクルステーションの利用者数	人					
対象(この事業の対象、範囲となる人、物)					(2) 対象指標（対象の大きさを表す指標）							
市民					名称		単位					
					①	人口	人					
					②							
目的(この事業によって上記対象をどのような状態にしたいのか)					(3) 成果指標（目的の達成度を示す指標）							
①リサイクルステーションを利用してもらう					名称		単位					
②再利用資源をリサイクルしてもらう					①	1日当たりの回収量	kg					
					②	1日当たりの利用者数	人					
結果(上位基本事業の意図)					(4) 結果の成果指標（上位基本事業の成果指標）							
リサイクルによる資源の有効利用、再資源化					名称		単位					
					①	リサイクル率(前年度実態調査結果)	%					
					②							
事務事業の各種指標の実績と見込及び目標												
指標 \ 年度		単位	R4年度実績値	R5年度計画値	R5年度実績値	R6年度計画値	R7年度目標値	R8年度目標値	R9年度目標値			
(1)の活動指標		① t	1,705	1,910	1,569	1,920	1,930	1,940	1,950			
		② 人	567,480	610,000	494,620	612,000	614,000	616,000	618,000			
(2)の対象指標		① 人	61,218	61,375	61,375	61,656	61,938	62,219	62,500			
		②										
(3)の成果指標		① kg	4,749	5,320	4,371	5,348	5,376	5,404	5,432			
		② 人	1,581	1,699	1,378	1,705	1,710	1,716	1,721			
(4)の結果の成果指標		① %	15.6	25.1	15.1	26.2	27.4	27.6	27.8			
		②										
予算費目		会計	01 一般会計				款	04	項	02	目	01
コスト		年度	R4年度実績値	R5年度計画値	R5年度実績値	R6年度計画値	R7年度目標値	R8年度目標値	R9年度目標値			
事業費(決算又は予算額) A		単位	69,126	198,884	165,592	85,295	87,842	89,475	91,631			
財 源 内 訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0			
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0			
	その他	千円	51,595	38,173	47,928	44,280	44,280	44,280	44,280			
	一般財源	千円	17,531	160,711	117,664	41,015	43,562	45,195	47,351			
人件費B		千円	7,238.2	6,562.4	7,020.4	7,020.4	7,020.4	7,020.4	7,020.4			
正職員従事時間×人数		時間×人	241×7	299×5	299×5	299×5	299×5	299×5	299×5			
正職員以外の人件費		千円	1,300	1,300	1,758	1,758	1,758	1,758	1,758			
その他の費用C		千円	315	315	280	280	280	280	280			
トータルコストA+B+C		千円	76,679.2	205,761.4	172,892.4	92,595.4	95,142.4	96,775.4	98,931.4			
単位あたりコスト		① 千円/人	1.3	3.4	2.8	1.5	1.5	1.6	1.6			
(トータルコスト/(2)の対象指標)		② 千円/	0	0	0	0	0	0	0			

事務事業名	No.	288	リサイクル推進事業
-------	-----	-----	-----------

2 評価 CHECK	目的 妥当性	この事業の必要性は薄れていませんか。十分な成果が得られていますか？	☒ 得られている ☐ 得られていない	理由	再利用資源を有効利用しごみの減量化、リサイクル意識高揚を図る。	
		事業進展等による環境変化に伴い、対象を見直す（拡大・縮小）必要はありませんか？	☐ ある ☒ ない	その理由	市民のリサイクル意識の高揚を図るためにも対象を見直す必要はない。	
		事業進展等による環境変化に伴い、目的を見直す（目的の追加・拡充又は絞込）必要はありませんか？	☐ ある ☒ ない	その理由	市民のリサイクル意識の高揚を図るためにも目的を見直す必要はない。	
	有効性	今以上に事業の成果を向上させる方法を記入して下さい。 ※(3)の成果指標を向上させることはできますか？	内容	回収品目を増加し、分別の徹底を周知する		
		目的達成状況	内容	1日当たりの回収量、利用者数が目標を下回っている		
		市関与の必要性（実施手法）	内容	☒ 民間への一部委託 ☐ 民間への全部委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金・負担金助成 ☐ 市の直営 シルバー人材センターへ委託		
効率性	事務事業の統廃合により、事業の効率化を図り、成果を向上させる方法を記入して下さい。	内容	現在で適正			
	現状より事業費・人件費を削減する方法を記入して下さい。（仕様の変更、外部委託、従事時間の削減等はないか？）	内容	現在で適正			
公平性	受益者負担はありますか？ また、受益者負担割合は適正ですか？	☐ ある ☒ 現状で適正 ☒ ない ☐ 検討が必要 ☐ 受益者がいない	内容	市民は無料で資源の搬入ができるが、搬入された資源は売却しているので適正である。		

3 改革 改善案 ACTION	事業実施上の課題、住民・議会等からの意見と対応策	意見	資源の買取単価の減少、逆有償化の懸念	対応策	リサイクルステーションの利便性向上による処理量の増加
	R6年度の事業計画は前年度から変更・追加はあるか	前年度	リサイクルステーション（メグリア）の建替えを実施し規模を拡大。	変更追加	宅配による小型家電のリサイクルを開始。
	今後の事業・コスト・成果の方向性		今後の事業の方向性、改革・改善案 ※今年度からの具体的な事業の進め方、手段の見直し等、各方向性の内容 ・令和6（2024）年度に宅配による小型家電のリサイクルを開始 ・リサイクルステーション（グリーンステーション）をLED化することでCo2排出量削減をはじめとする環境負荷への対応を図る。 ・ごみの減量化及び資源の有効利用を推進するとともに、市民の資源ごみの有効利用に対する認識を深め、ごみの分別収集並びにリサイクルの普及を図る。		
コストの方向性		→ 維持			
成果の方向性		↓ 減少			